



問 地域計画策定推進事業について問う

地域計画策定推進事業とはどのような事業で、これまでの人・農地プランとの関連はあるのか。また、成果を出すためには、どのように進めるのか。

答 地域計画策定に向けた機運の醸成が図られるよう努める

同事業は、地区の農業者と、県、津市、農業委員会、農地中間管理機構、農協などの地域農業の関係機関が集まり、農業の将来について話し合い、目指すべき将来の農地の姿を定めていこうとするもので、これまでの人・農地プランが地域計画として法律に位置付けられ、今後2年間で市町村が策定していくことが国から求められている。これまで作成した人・農地プランを土台として、確かなものにしていく「目標地図」づくりに取り組む。今後、担当する職員数を増やし、行政が話し合いに参加する取り組みを進め、地域計画策定に向けた機運の醸成が図られるよう努めていく。

その他の質疑・質問

- ヤングケアラーについて
- ヤングケアラーへの市の対応状況
- この調査に津市として回答していればその内容について
- 県が実施したヤングケアラーに関する実態調査の内容について
- 通園バスによる送迎について

など

厚生労働省による、ヤングケアラー認知度向上のための啓発チラシ



問 交通体系をデマンド型交通でさらに進化させる考えはあるのか

最近、全国的にデマンド型交通を導入する自治体も増えてきたように思う。一志地域では、合併前にすでにデマンド型交通を運行していた経緯がある。高齢社会の到来で運転免許証を返納する人が増えること、バス停まで行くのが困難な高齢者がますます増加することが予想される。現在の交通体系を進化させ、津市でもデマンド型交通を試験的に運行し、調査・研究する考えはあるのか。

答 地域に適した移動手段の構築に向けて引き続き検討していく

デマンド型交通は、運行方式や運行ダイヤ、発着地の組合せにより多様な運行が可能となる。停留所をきめ細かく設定できるなどのメリットがある反面、予約が面倒という理由から利用されなかったり、利用者が多くなると、目的地に到着する時間が遅くなるなどのデメリットもあり、導入の際には慎重に検討する必要がある。令和8年度に実施するコミュニティバスの次期再編を見据え、デマンド型交通の在り方についても検討を進めており、地域公共交通あり方検討会などにおいて地域住民のご意見を聴きながら、地域により適した移動手段の構築に向けて引き続き検討していく。

その他の質疑・質問

- 一級河川雲出川の整備と整備計画はどうか
- 波瀬川・赤川等の整備計画はどうか
- 雲出川・波瀬川に挟まれた地域の雨水管理は
- 消防通信指令業務の共同運用はどうか
- 津市の機能別団員・女性消防団員について
- 農業政策で資材高騰に対しさらなる支援策は
- 次年度の地域計画および獣害対策はどうかなど

デマンド型交通体系からコミュニティバス運行に変わった現在の一志地域のコミュニティバス

